

| | |
|--------|------------------------------------|
| 学校教育目標 | 豊かな心とたくましい体をもち、自ら進んで学習、活動できる子どもの育成 |
|--------|------------------------------------|

《本年度の重点目標》

《重点目標1》 学力、体力の向上を図り、豊かな心の育ちを推進する学校づくりを目指す。

《重点目標2》 安全、安心な学校づくりを推進する。

《重点目標3》 開かれた学校づくりを推進する。

○評価 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

| 取組 | 評価項目 | 評価項目についての重点的取組 | 評価 | ○成果と◆次年度の改善点 |
|------------|--|---|----|---|
| 学力向上に関する取組 | 【授業改善①】 ◇<児童質問紙(55)>「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加 | ○全学年、ノート指導を大切に。ノートには、めあてとまとめを必ず記入させる。めあてについては、学習内容や行動が見通せるようなものを設定する。 ○既習内容の活用が図れるように、掲示物や思考の手順を示すことで、課題に関して自ら考えることができるようにする。自分の考えを書く時間を設定するとともに、適宜話し合う時間を設定する。主題研究の実践を通して、「問題把握」「自力解決」「学び合い」といった児童の主体的な学びに沿った授業づくりを行う。 ○学期末に児童アンケートをとり、児童の学びの実態を把握するようにする。 | B | ◆児童質問紙(55)で肯定的な回答をした児童の割合は、達成目標に到達しなかった。 ○12月実施の学校アンケート⑥「めあてとまとめを必ず書いていますか」で肯定的な回答をした児童の割合は達成目標を越えた。 ◆めあてとまとめの質の向上を図るため、整合性を意識して指導する。また、少しずつ児童の言葉で設定できるようにする。 ○学校アンケート⑦「自分の考えたこと、振り返りを進んで書いていますか」で肯定的な回答をした児童の割合は達成目標に到達した。 ◆振り返りを書く時間や発言する時間を計画的に設定し、児童の学び方を習慣化していく。 |
| | 【授業改善②】 ◇<児童質問紙(67)>「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加 | ○ノートを活用した話合いの時間を短時間でも設定することで、説明することの苦手意識を軽減させていく。一単位時間の授業の中で、「話し合う活動」を取り入れることに算数科を中心に取り組む。児童が、自分の意見を語るができること、また、それを受容することができる学級の雰囲気醸成し、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。 | B | ◆児童質問紙(67)で肯定的な回答をした児童の割合は、達成目標に到達しなかった。 ○学校アンケート⑧「話し合う活動ではお互いの良さや違いを比べながらできていますか」で肯定的な回答をした児童の割合は達成目標を越えた。 ◆ノートを見せながら話合いをする習慣の徹底と、話合いの型の活用を行っていく。効果的な話合いの場面や発問を吟味していく。 |
| | 【家庭学習】 ◇<児童質問紙(29)>「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加 ◇<児童質問紙(15)>「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上している」と回答した児童の割合の増加 | ○家庭学習の時間や内容を記載した、家庭学習の手引きを配布して家庭学習の啓発を図る。また、家庭学習チャレンジハンドブックの「家庭学習宣言シート」と「わたしの読書記録」を2週間に一回点検する。 ○近接学年間で宿題の量や内容を相談する時間を設定し、家庭学習についての共通理解を図り、学習の時間と質の向上を目指す。 ○児童・保護者を対象に「家庭学習に関するアンケート」を実施し、児童の学びの実態を的確に把握する。[各学期1回] | B | ○職員に対する家庭学習の児童への啓発や職員間の共通理解のアンケートは、肯定的な回答が向上している。 ◆児童質問紙(29)および(15)で肯定的な回答をした児童の割合は、達成目標に到達しなかった。また、学校アンケート⑨「1日にどれくらい家庭学習をしていますか」では、学年×10分以上学習している児童の割合が達成目標にあと一息という状況だった。また、⑩「家で計画を立てて学習をしていますか」では、肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達しなかった。そこで、チャレンジブックの2週に1度の点検を徹底する。また、各学年の実態に合った家庭学習のメニュー表を作成、配布し、保護者への啓発も図る。 |
| 体力向上に関する取組 | 【授業改善】 ◇<児童質問紙(17)>「ふだんの体育の授業では、授業の始めに授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加 | ○「北九州市スタンダードカリキュラム」を基に、学年間の系統性や単元のねらいを十分に教材研究することで、一単位時間のねらいを明確にした指導を行う。 ○汗をかく体育授業を実践し、体を動かす楽しさや喜びが実感できるようにするとともに、児童一人一人に達成感が得られる授業展開の工夫を行う | B | ◆児童質問紙(17)で肯定的な回答をした児童の割合は、達成目標に到達しなかった。 ○学校アンケート⑪「体育の時間に学習のめあてや自分の目標が達成するように取り組んでいますか」で肯定的な回答をした児童の割合は向上した。 ◆パワーアッププラン(事後研修)の内容を共通理解し、さらなる充実を図る。 |
| | 【運動習慣】 ◇一校一取組として、年間をとおして、週1回全校で取り組んだ回数の割合を80%以上 | ○新体力テストを全学年・全種目・適切に実施するために校内研修を行う。 ○毎週木曜日の中休みに運動タイム(スポコン広場等)を設定し、全校で取り組む。 1学期…みんなで反復横とび ・みんなでドッジボールラリー 2学期…みんなでジグザグ走 ・みんなでなわとび 3学期…みんなでランニング | B | ○全学年が種目に応じた準備運動を行った上で、新体力テストの実施ができた。 ○週1回の運動タイムは4種目行い、目標とする回数を実施することができた。 ◆運動タイムでは、健康委員会の児童に役割を与えることで、児童にとってより主体的な活動にしていける。 |
| 心の育ちに関する取組 | 【授業改善①(道徳)】 ◇<児童質問紙(49)>「学校のきまり・規則を守っていますか」について、肯定的な回答をした児童の割合を維持 | ○道徳の時間に内容項目「規則の尊重」「節度・節制」に関する教材を学期ごとに行い、重点的に取り組む。また、生活科や総合的な学習の時間において、地域人材をいかした交流活動を積極的に進める。 | B | ○児童質問紙(49)で肯定的な回答をした児童の割合は、達成目標を超えることができた。 ○学校アンケート④「学習中や休み時間のきまりを守っていますか」で肯定的な回答をした児童の割合も高かった。 ◆道徳の指導を着実に。小中連携による相互の授業参観を基に、学習規律を中心に児童に啓発・指導していく。短時間でも継続した指導を行う。 |
| | 【授業改善②(特別活動)】 ◇<児童質問紙(6)>「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加 | ○「北九州子どもつながりプログラム」を系統的に行い、児童同士の人間関係を深める。また、学級や学校への所属感を高め、有用感をもたせるために、係活動や委員会活動を充実させる。 ○各学級の学活や帰りの会で「友達の良いところみつけ」等、互いを認め合い、褒め合う取組や係活動での創意工夫が生かされる場の設定を行う。 | B | ◆児童質問紙(6)で肯定的な回答をした児童の割合は、達成目標に到達しなかった。 ○各学級や委員会活動を中心に、あったかことばの掲示や異学年交流の集会を開催することができた。 ◆「自分には、よいところがあると思う」が61%だった。「当てはまらない」と回答する児童が高学年になるにつれ、固定化している。自尊感情を高める学級活動や学校行事に取り組むと共に、日々の活動の継続と即自的な評価を充実していく。 |
| 安全安心な取組 | 【いじめの早期発見】 ◇いじめの早期発見に努め、いじめを許さない学級、学校をつくる。 【特別支援教育の推進】 ◇児童の実態を把握し、必要な支援が行える校内体制づくりを行う。 | ○「心のアンケート」を1学期と2学期に行い、面談を行う。 ○生徒指導および特別支援教育に関わる情報提供の場を学期に2回設定する。 ○個別の指導計画や支援計画の作成を推進する。 | B | ○アンケートの後に担任が一人一人と面談することにより、児童の友達関係などを把握することができた。 ◆1学期にアンケートを実施できなかった。計画的に取り組むようにする。 ○児童の様子を共通理解する機会を設けることで、学校全体で取り組む体制づくりができた。 ○個別の指導計画、支援計画の作成を行った。 ◆スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他の関係機関と連携して、児童のニーズに応じた教育について研修していく機会をもつ。 |
| 開かれた取組 | 【あいさつがひびく学校づくり】 ◇気持ちの良いあいさつができる児童を育てる。 【保護者、地域と連携した学校づくり】 ◇保護者や地域と情報を共有し、子ども達とともに育てる体制づくりを推進する。 | ○縦割りグループの児童が「0のつく日」に行うあいさつ運動を継続する。 ○中学校区で連携した取組を行う。 ○学校通信、学校ホームページを活用し、情報発信をする。 ○地域人材を活用した取組を行う。 ○地域行事への参加を促す。 | B | ○「0のつく日」のあいさつ運動は企画委員会児童を中心に、自発的に取り組むことができた。 ○「ひびくあいさつ、ビッグなスマイル、きょうりょくしながら、がんばるみんな、おもいやりと感謝の心をもって、かがやくひびきっ子」のキャッチフレーズを代表委員会で作成し、あいさつ運動に取り組んだ。 ○中学校区でのあいさつ運動を1回行うことができた。 ◆一人一人があいさつすることについては、個人差が大きい。この取組を続け、あいさつのひびく学校づくりを継続する。 ○例年参加している地域行事のアトラクションに今年も参加した。 ◆保護者の学校行事の参加や地域行事への児童の参加について、今後も取組を継続する。 |